

Q5： 栃木県の特別支援教育が目指す「安心感のある学級づくり」や「わかりやすい授業づくり」をすすめる上での配慮すべき点等について、具体的に教えてほしい。

A： 県教育委員会では、通常の学級における特別支援教育の基本方針として、児童生徒にとっての「安心感」と「わかりやすさ」を高める指導について、次の内容を示してきた。

「安心感」を高める指導

- 児童生徒のもっている力を認める
- 児童生徒同士の認め合い助け合う関係を育てる
- 集団生活におけるきまりを教える

「わかりやすさ」を高める指導

- 全体の見通しを伝える
- 指示は短く、明確に伝える
- 言葉だけでなく、視覚的な手がかりも添える

通常の学級で特別支援教育をすすめるためには、障害の有無にかかわらず、学級の児童生徒一人一人が本来もっている力を最大限に発揮して自信をもてるように、温かくきめ細かな指導を行うことが重要である。そのためには、「安心感のある学級づくり」や「わかりやすい授業づくり」を行うことが不可欠である。

以下に、具体的に配慮すべき点等について述べる。

○環境整備の例

- ① 教室前面の掲示板は最小限にする。(学校教育目標・学級目標程度)
- ② 黒板には授業以外のものは貼らず、チョークの色使いに配慮する。(文字は白と黄色、赤は枠組み等)
- ③ 掲示物の下地となる色画用紙の色に配慮する。(グリーンやベージュなどの落ち着いた色)
- ④ 給食当番等の役割をわかりやすく表示する。(写真やイラストなどの表示)
- ⑤ 掃除用具の片付け方、活動の手順を具体的に提示する。(活動の過程を写真等で順に提示)
- ⑥ 机の配置場所が誰でもわかるようにする。(わかりやすい目印等の配慮)
- ⑦ 座席配置は教師が意図をもって行う。(視力、身長等を配慮し、全員が黒板を見やすいようにする)
- ⑧ ロッカー等の使い方を明確にする。(効率が良く、使いやすい配置の仕方の共有化)

○組織づくりの例

- ① 協力して日直ができるようにする。(一人ではなく二人以上での担当)
- ② どの子も活躍できる場面リーダー制を活用する。(学級会での計画委員の輪番制など)
- ③ 生活班での役割を明確にする。(生活班での個々の役割を明確にし、リーダーは場面によって交代制)
- ④ 学級会の話合いで係活動を編成する。(学級会で合意形成を図り、全員が協働して活動できるような組織編成)
- ⑤ 当番活動の役割を明確にする。(給食や清掃当番での役割を明確にし、役割を定期的に交代)

○授業づくりの例

- ① 正しい姿勢のモデルを示す。(正しい姿勢のイラストなどの掲示)
- ② 発表の仕方(話し方)を示す。(「はい、～です。理由は～だからです。」など)
- ③ 最小限の学習規律を示す。(話す時は「大きな声で・最後まで・順序よく」、聞く時など)
- ④ 授業のめあてを明確に示す。(「この時間のめあては、～です。」と話し、明確に板書)
- ⑤ 学習の流れと時間を示す。(「課題、仮説、実験、発表、まとめ」などの流れと時間の提示)
- ⑥ 活動の手順を図で示す。(図画工作や家庭科での活動の手順を写真やイラストで提示)
- ⑦ グループ学習では役割を明確にする。(司会、記録、まとめ、発表者等の役割と進め方の明確化)
- ⑧ 体育での励ましの言葉かけを確認する。(チームでナイスプレー、ドンマイ等の言葉かけの確認)
- ⑨ 半具体物を授業に取り入れる。(算数ではピザの模型などの半具体物を用いて、割り算や分数の学習を行う)
- ⑩ リコーダーに穴パッチシールを貼る。(リコーダーの穴が見た目やさわり心地でわかるような工夫)
- ⑪ 音を視覚化できるようにする。(「たん」と「うん」のカードをつなげたリズム遊び)
- ⑫ 授業での誤答を大切に扱う。(誤答が授業の内容を深めるよう、子供が発言しやすいような雰囲気づくり)

○教師の言葉かけの例

- ① 前置きしてから話す。(これから三つの話をします。一つ目は、二つ目は、三つ目は～)
- ② 肯定的な言葉をかける。(「～できなかったら～しない」ではなく「～したら～しましょう」)
- ③ 言葉をイメージ化する。(「静かに廊下を歩きましょう」から「忍者になって廊下を歩きましょう」)
- ④ 具体的な指示を出す。(「あっち」「たくさん」「ちゃんと」)でなく、目的や終点、量や回数の明確化)
- ⑤ 語調に変化をつける。(声のトーン、抑揚、速さの変化への配慮)
- ⑥ 非言語動作を活用する。(アイコンタクト、OKサイン、動作やアクションの活用)
- ⑦ 繰り返しを活用する。(子供の発言を繰り返すことによる受容)
- ⑧ よい行為を具体的に褒める。(「〇〇がよくできていましたね」といった具体的な行為の称賛)

文部科学省では、平成29年2月にユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議においてまとめられた「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を踏まえ、児童生徒が「心のバリアフリー」に関する理解を深めることができるよう、令和元年10月に「心のバリアフリーノート」を作成した。本資料は、その中の、「どの子どもも安心して活躍できる学級経営の視点(例)」から抜粋したものである。各学校においては、適宜、文部科学省HPよりダウンロードして活用してほしい。

【参考資料】

- ・「特別支援学級及び通級による指導 教育課程編成の手引」 H31.3 県教委
- ・「学校における合理的配慮の提供について」リーフレット H28.2 県教委
- ・「教育支援資料」 H25.10 文科省
- ・「気になる子どもの理解からその具体的な指導へ」リーフレット H24.3 県教委